Long-Term Safety and Efficacy of Adalimumab in Patients with Noninfectious Intermediate Uveitis, Posterior Uveitis, or Panuveitis

Eric B Suhler, Glenn J Jaffe, Eric Fortin, Lyndell L Lim, Pauline T Merrill, Andrew D Dick, Antoine P Brezin, Quan Dong Nguyen, Jennifer E Thorne, Joachim Van Calster, Luca Cimino, Alfredo Adan, Hiroshi Goto, Toshikatsu Kaburaki, Michal Kramer, Albert T Vitale, Martina Kron, Alexandra P Song, Jianzhong Liu, Sophia Pathai, Kevin M Douglas, Ariel Schlaen, Cristina Muccioli, Mirjam E J Van Velthoven, Manfred Zierhut, James T Rosenbaum
Ophthalmology. 2021 Jun;128(6):899-909.
PMID: 33157077 DOI: 10.1016/j.ophtha.2020.10.036.

非感染性の中間部，後部，または汎ぶどう膜炎患者におけるアダリムマブ長期投与時の安全性および有効性について

アダリムマブが本邦で非感染性ぶどう膜炎の治療薬として認可されて 5 年が経ち、長期投与時の安全性、有効性が注視されています。VISUALⅢ試験は VISUAL Ⅰ・Ⅱ試験の継続試験であり、アダリムマブ長期投与時の有効性・安全性を評価しており、治療効果と副作用についての安全性が随時報告されています。
この論文では、150 週時における有効性と 362 週までの有害事象について報告されており、ぶどう膜炎の沈静化状態が達成された患者割合は、0 週時に 34%であったのと比較して 150 週時には 85%となったこと、活動性ぶどう膜炎患者の 54%、非活動性ぶどう膜炎患者の 89%で経口ステロイドフリーとなったこと、経口ステロイド投与量は、0 週時に平均 9.4mg であったのと比較して 150 週時には 1.5mg にまで減少できたことなどが報告されています。また、有害事象としての感染症は 275 件（79 件／100 人年）であったとのことです。
長期投与における有効性で懸念されるのは二次無効の増加ですが、今回の報告ではそのような知見はなかったことは安心できる結果である一方で、感染症については少なくない率でした。今後もさらなる長期投与の安全性、有効性の報告が望まれます。

（担当者： 近畿大学 岩橋 千春）